

# スポーツクラブの育成

## ——足利市スポーツクラブ連合の形成・発展過程から——

足利市民体育館 石川 浩

### 1. はじめに

クラブとは本来、社会的に多種多様な機能を持った組織であり、様々な種類のクラブが存在する。スポーツクラブは、その中の1つであり、スポーツを核にお互いの社会的交わりを結ぶメンバーの集まりといってよい。目的は各々はっきりと決められ、それに賛同する人達が強制や義理でなく、自発的に入会している。目的を達成するために民主的な手続きを経てつくられ、つくりかえられていく規約が存在し、その規約に基づいて民主的に運営される。一方、日本における多くのスポーツクラブの実態はというと、それはチームであるといわれている。チームとは、試合に出る単位であり、レギュラープラス若干名のメンバーで構成されていて「他のチームに勝つ」ことに目的の主眼をおき、試合に向けて継続的に活動している集団のことをいう。チーム内で競争が行われるため、レギュラーになれない人、試合に出られそうにもない人は、やめていく傾向が強く、中心になる指導者・監督・キャプテンへの依存度が極めて高い。また、チームとして固まっているため、内的結束は固いが他の人は新しく入りにくく、他に対して閉鎖的になりがちという特徴を持っている。

これから生涯スポーツの時代に向けて、スポーツクラブの質的な転換を図り、実際のチームをスポーツクラブ化したり、スポーツクラブをスポーツクラブ連合化していくことにより、生涯スポーツのより一層の推進を図るべく、昭和62年度から「地域スポーツクラブ連合育成事業」が国の補助事業として実施されている。

### 2. 本市が育成事業に取り組んだ理由

足利市では、昭和55年の栃の葉国体を契機として「市民ひとり1スポーツ」を目標に掲げ、各種スポーツ教室を開催してきた。いつでも、どこでも、だれもが参加できるよう多種多様のプログラムの展開を心がけ、開設コース数及び参加者数は今まで増加の一途を続けている。同時に、教室だけのスポーツ活動にとどまらず、終了後の活動を継続・定着させるため昭和59年度から、「足利市スポーツクラブ育成費補助要綱」(図1)を設置し、スポーツクラブの育成を図ってきた。その結果として、スポーツ教室のおもな会場である公共スポーツ施設を中心に多くのクラブが誕生してきている。しかし、行政としてのクラブに対するフォローは完全であるとはいはず、指導者不足やクラブ運営に関する諸問題についての指導・助言が行き届かないため、クラブができてはつぶれ、つぶれてはできるという経過を繰り返すことが多かった。また、クラブ数の増加により、施設不足を招き、クラブ同志が施設の奪い合いをせざるをえない状況も起こったのである。これまで「利用者委員会」的な組織もなく、クラブ間の話し合いすら皆無であったといえる。そんな状況下で「地域スポーツクラブ連合育成事業」を知り、スポーツクラブの育成と共にスポーツ施設の有効活用の点からも足利市にフィットするものと考え、昭和63年からこの事業に取り組むことになった。

図1

## 足利市スポーツクラブ育成費補助要綱

(目 的)

スポーツ教室参加者が、スポーツ教室終了後にそのスポーツをクラブとして継続し活動する場合に、これに要する経費の一部を補助する。

(基 準)

1. スポーツ教室修了者15名以上の団体であること。
  - (1) スポーツ教室修了者で組織するクラブ
  - (2) スポーツ教室修了者が15名以上で加入する既存のクラブ
2. おおむね週1回程度の定期的活動を行う団体であること。
3. かららずスポーツ傷害保険に加入すること。

(補 助 額)

1. クラブ当たり年額20,000円を限度とし補助する。

(期 間)

1. 新規に組織したクラブは2年継続とする。
2. 教室修了者が加入する既存のクラブは1年とする。

(交付申請)

団体から市長に次の書類を提出する。

- (1) 補助金交付申請書
- (2) クラブ員名簿
- (3) スポーツ傷害保険申し込み書(写)
- (4) クラブ活動計画書
- (5) 予 算 書

(実 施)

昭和59年4月1日からとする。

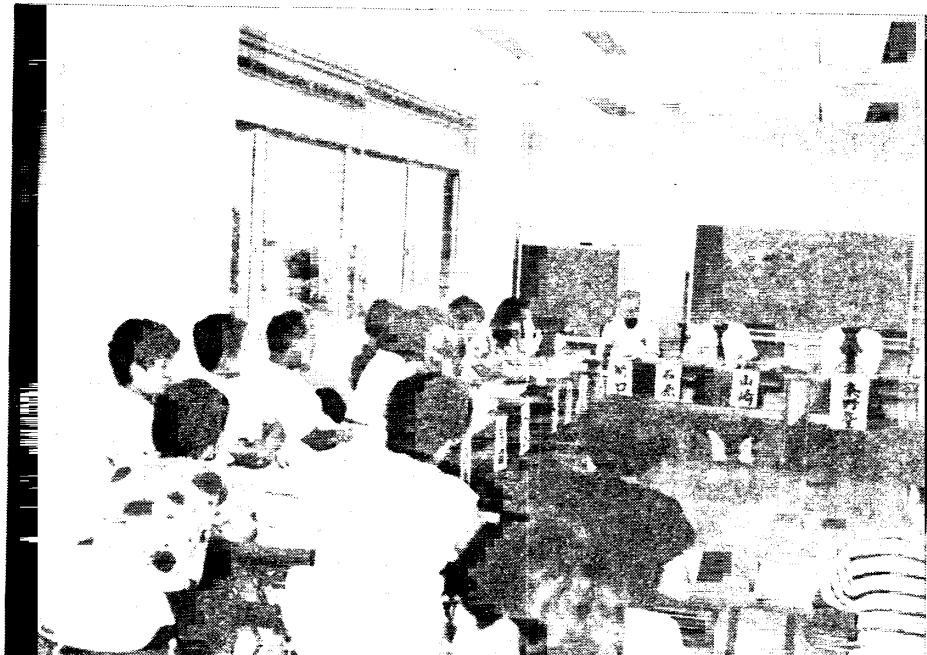
### 3. 連合の形成段階

#### (1) 連合の基本的考え方

連合事業の推進にあたり、基本的理念として「クラブとクラブとをいかにして有機的に結びつけるか」という連合のテクニックにのみあるのではなく、連合という新しい枠組みの中で各クラブがかかわりを持つことにより、クラブがどのように変わり、育ち、継続が図られるかという点であり、それにより市民一人ひとりのスポーツ活動がどのように変化していくかということに外ならない。」と考え、図2にあるとおり、あくまで連合はクラブのために存在し、クラブは個人のスポーツ欲求を保障するために存在することを念頭において事業を展開していくことになった。

#### (2) 組織の枠組み

基本的考え方を柱に事業を展開するにあたり、どこまでの範囲を組織化していくかを考え、最終的には足利市のスポーツクラブ全てを網羅できるものが理想であるが、最終目的達成へのステップとして、まず図3にあるとおり、施設の饱和状態にある市民体育館・体育センター・テニスコートを定期的に使用している46クラブを対象に組織化していくことにした。



運営研究協議会

図2 生涯スポーツに根ざしたスポーツクラブ連合の育成

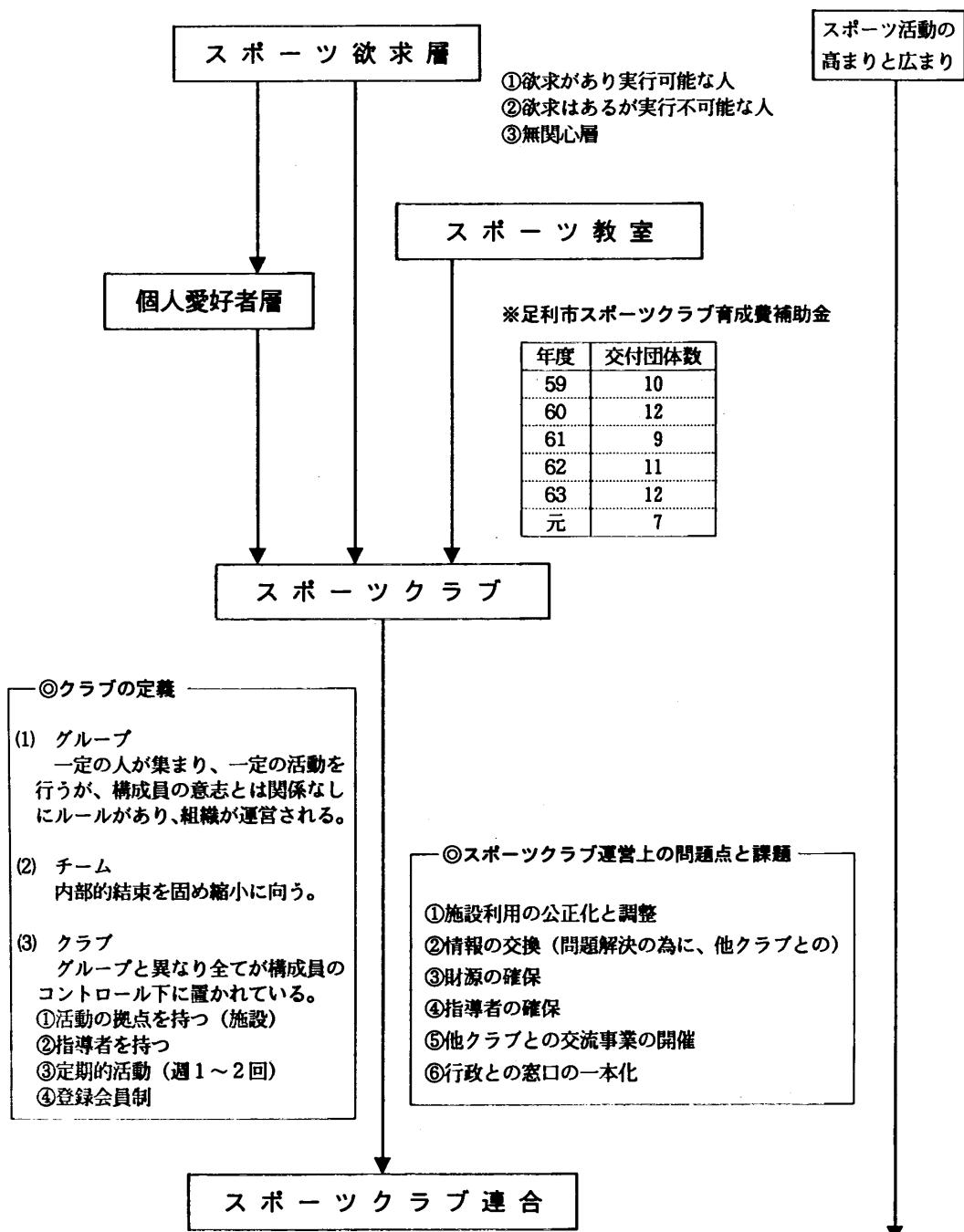
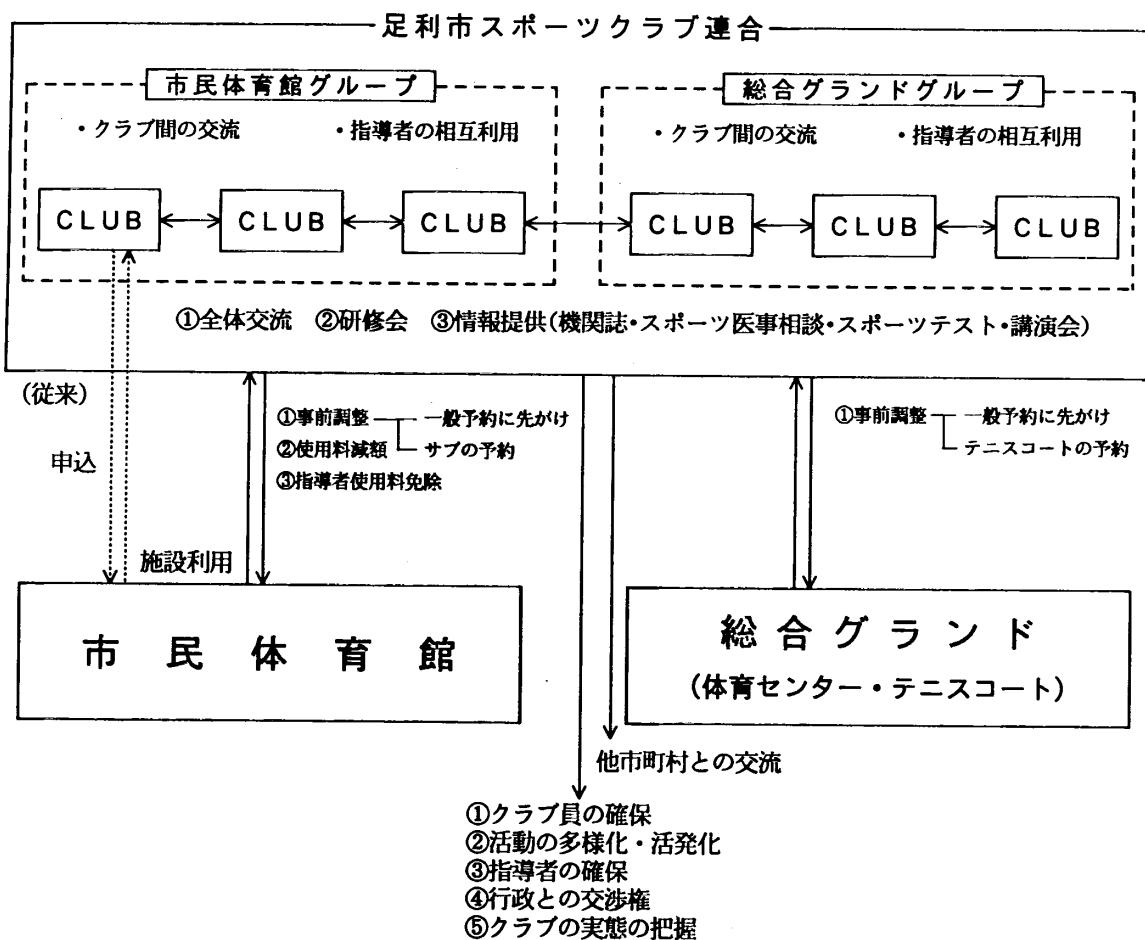


図3 足利市スポーツクラブ連合構想



### ③ 施設利用方法の変革

クラブを存続させるための大きな要因として、活動の拠点となる施設のフランチャイズ化があげられる。その一助として、行政のできる範囲で施設の利用方法の手直しを行った。図3にあるとおり、従来はクラブが施設に直接申し込みをする方法であったが、「施設の利用調整会議」の開催により、一般の申し込みに先駆けて、連合として予約を取れるようにした。同時に今まで予約できなかったサブ競技場・テニスコートについて予約可能にした。ここで初めてクラブ間の話し合いが持たれるようになり、譲り合いや共同利用が行われ、共存共栄の第一歩となつたのである。この点については、クラブの活動拠点の確保と同時に限りある施設の有効活用も図られる結果となった。

#### (4) 発足までの準備

昭和63年

- 2. 15 第1回連合育成事業打ち合わせ会議（スタッフ）  
組織体系・事業計画について
- 3. 23 第2回連合育成事業打ち合わせ会議（スタッフ）  
事業の取り組みについて
- 4. 4 第3回連合育成事業打ち合わせ会議（スタッフ）  
事業概要と役割分担について
- 4. 25 第4回連合育成事業打ち合わせ会議（スタッフ）  
事業計画と推進計画について
- 5. 19 第5回連合育成事業打ち合わせ会議（スタッフ）  
事業計画と推進計画について
- 5. 23 連合育成事業中間報告・勉強会（スタッフ）  
事業概要の原案の提示と協議
- 7. 4 第6回連合育成事業打ち合わせ会議（スタッフ）  
事業の減免規定、PR文、事業計画修正
- ※ 7. 15 スポーツクラブ連合説明会  
連合に加盟するクラブに対し主旨説明
- ※ 8. 17 第2回連合運営研究協議会  
スタッフとクラブ代表でスポーツクラブ連合の基本的考え方の講話と研究協議
- 8. 31 第7回連合育成事業打ち合わせ会議（スタッフ）  
研究協議の報告、減免規定、事業計画修正
- ※ 9. 21 第1回連合発足準備会議  
スタッフとクラブ代表で事業概要、構想、運営方法、運営委員などの決め
- ※ 9. 29 第2回連合発足準備会議（施設の利用調整会議）  
スタッフとクラブ代表で前回未決事項、利用調整方法の説明

この事業を取り組むにあたり、あわてて組織づくりのみを進めることなくスタッフによる7回の打ち合わせ会議を行い、幾度もの軌道修正を行なながら事業原案を決めていった。また、※印のあるとおり、クラブ代表者を交えての説明会・発足準備会議等を4回開催し、行政の方的なおしつけにならぬよう、クラブ側の意見も取り入れながら共通理解を得た上で事業原案を協議していった。実質的にクラブ連合として動き出したのは10月25日に開催した第1回連合運営委員会である。結果として第1回打ち合わせ会議から発足までに実に半年以上、10数回に及ぶ会議を費やしたことになる。

#### 4. 連合の発展過程（実施事業の推移から）

事業の実施において、初年度の昭和63年度は、行政が作成した原案を基本として実施されたが、平成元年度以降は、各施設の代表により構成された運営委員会で事業内容等、充分に審議された上で実施されていった。

##### (1) 企画運営会議の開催

※○内の数字は開催回数

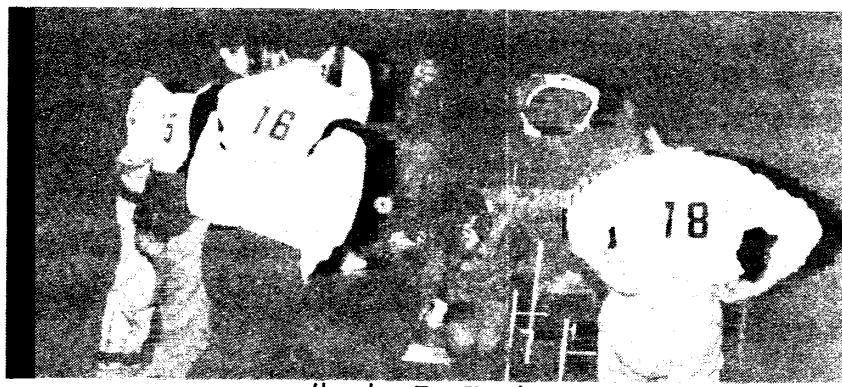
|            | 63年度 | 元年度 | 2年度 |
|------------|------|-----|-----|
| ①施設の利用調整会議 | ⑦    | ⑫   | ⑫   |
| ②運営研究協議会   | ②    | ②   | ①   |
| ③役員会       |      | ①   | ③   |
| ④総会        |      |     | ①   |

運営研究協議会は、大学教授をアドバイザーとして迎え、クラブの問題点等テーマを決め協議の場としている。役員会は年を追うごとに活発になり、平成2年度には初めての総会が開催された。

##### (2) スポーツ情報の提供

|                | 63年度     | 元年度 | 2年度 |
|----------------|----------|-----|-----|
| ①スポーツカレンダーの発行  | ①        | ①   | ①   |
| ②機関誌「笑顔」の発行    | ①        | ①   | ※①  |
| ③体力テスト・体力相談の開催 | ③        | ②   | ②   |
| ④スポーツ医事相談の開催   | ①        | 中止  | 未定  |
| ⑤スポーツ講演会の開催    | ①        | ①   | ①   |
| ⑥「連絡板」の活用      | 年間を通じて活用 |     |     |

機関誌の発行について、平成2年度は、クラブ代表者による「編集委員会」を2度開催し、内容検討がなされるようになった。



体力テスト

### (3) スポーツクラブ指導者の研修

|                       | 63年度 | 元年度 | 2年度 |
|-----------------------|------|-----|-----|
| ①リーダーバンク登録者研修会へ参加     | ①    | ①   | ①   |
| ②少年スポーツ活動指導者講習会へ参加    | ①    | ①   | ①   |
| ③コミュニティスポーツリーダー講習会へ参加 | ①    | ①   | ①   |
| ④特別講師招聘実技研修会の開催       | ①    | ①   | ②   |
| ⑤「生涯スポーツ実技指導者講習会」参加   |      |     | ①   |
| ⑥クラブ連合先進地視察           |      |     | ①   |

①～③については行政主体事業への参加である。特別講師招聘実技研修会は、クラブ員のアンケートや要望の多いものから昭和63年度・軟式テニス、元年度・バドミントン、2年度・硬式テニス、ストレッチ体操の2回を実施した。また、⑤⑥の講習会・視察については2年度に初めて実施した。

### (4) スポーツ指導者の派遣

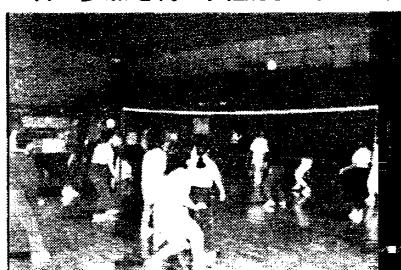
|                | 63年度     | 元年度 | 2年度 |
|----------------|----------|-----|-----|
| ①リーダーバンク登録者の活用 | 年間を通じて活用 |     |     |
| ②指導者の相互派遣      | 年間を通じて活用 |     |     |

活用指導者の派遣については、諸会議においてコミュニケーションが盛んになったことで、クラブ間同志の情報収集や依頼が容易になり、同種目や異種目についても相互派遣が活発に行われるようになった。その結果、活動の多様化にもつながった。

### (5) スポーツ交流大会の実施

|                  | 63年度     | 元年度 | 2年度 |
|------------------|----------|-----|-----|
| ①軽スポーツフェスティバルの開催 | ①        | ①   | ①   |
| ②クラブ間の交流         | 年間を通じて活用 |     |     |
| ③連合交流大会の開催       |          |     | ①   |

クラブ間の交流は、施設の有効活用の観点から、同種目間の合同練習や試合が主であったが、それによって徐々に交流が盛んになってきている。交流大会については、役員による提案で開催されることになり、実行委員会を設置し、独自の事業として実施された初めての試みであった。200名の参加を得て大盛況のうちに開催された。



連合交流大会



特別講師招聘実技研修会

## 5. クラブに対する調査

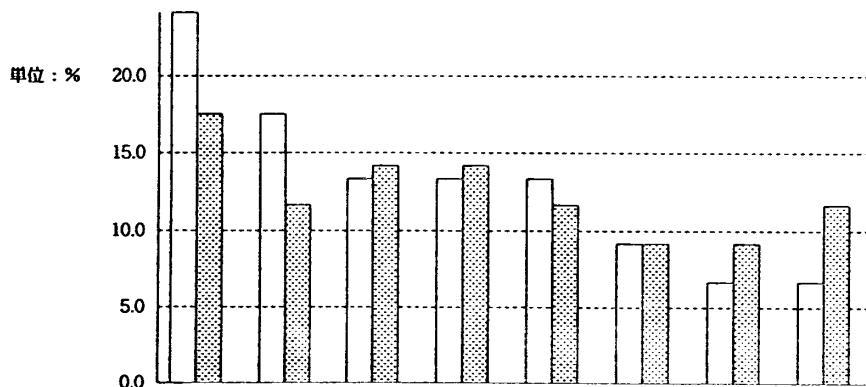
クラブの実態やクラブ連合に対する意識の変化をみるために、連合発足当時と平成2年の2回、同様の調査を実施してみた。

### クラブに対するアンケート調査結果

|       |  |
|-------|--|
| 調査実施日 | 昭和63年11月及び平成2年10月  |
| 調査実施数 | 63年：46クラブ 2年：33クラブ   |
| 調査目的  | クラブ連合結成当時と結成後約2年を経過した現在のクラブの活動状況を比較することにより、連合がクラブに対しどのような影響を与える、クラブ自体がどう変化したかをみるために実施した。 |
| 調査項目  | 1. 活動内容（種目）<br>2. クラブ員数<br>3. 活動日数<br>4. 会費（月換算）<br>5. 指導者の有無<br>6. 会則の有無<br>7. 保険加入     |

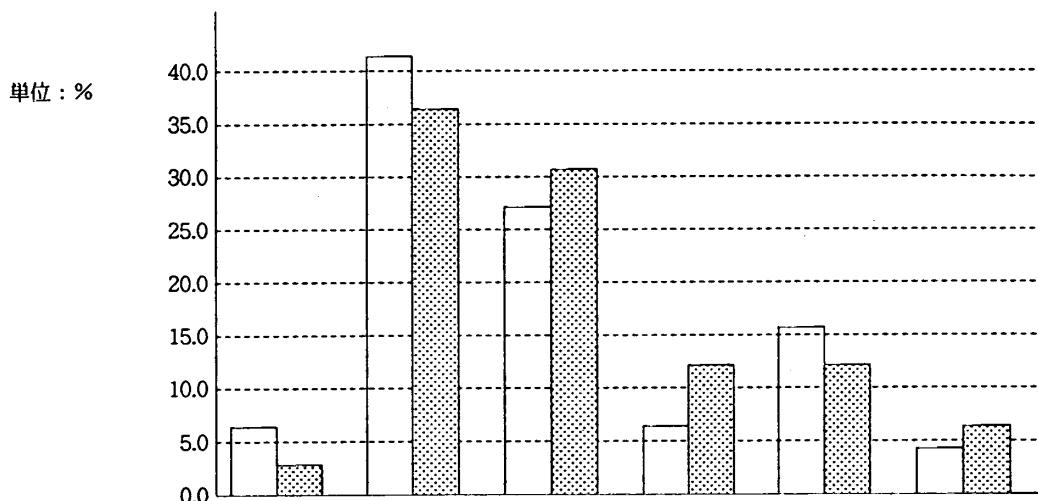
※調査実施数が異なるため、すべてパーセントによる比較とした。

#### 1. 活動内容（種目）



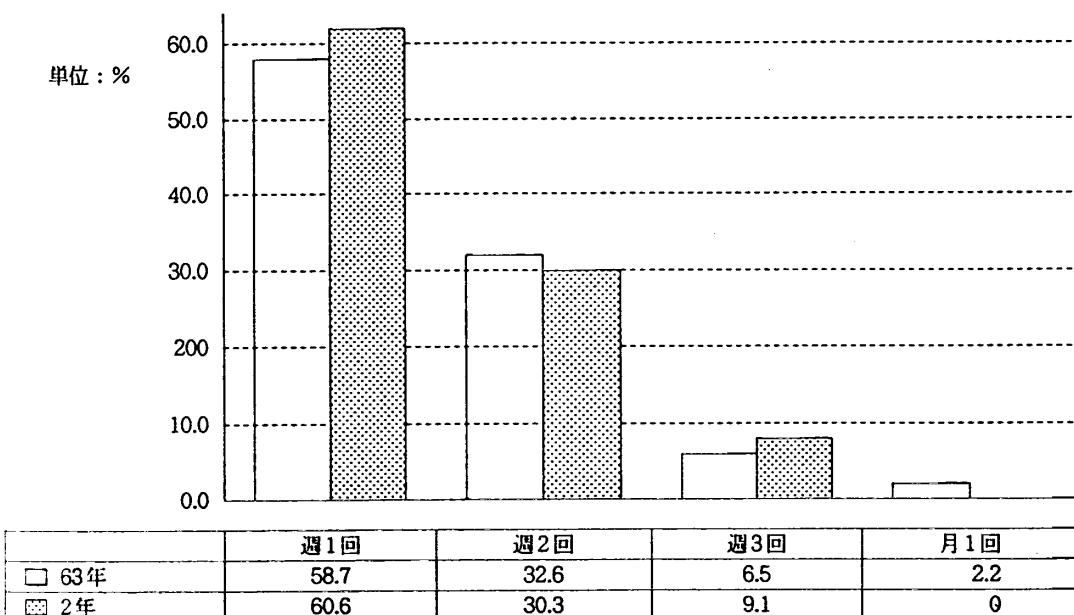
活動内容については実施数の違いにより妥当性は薄いと思われる。連合結成後、新規加盟・脱会・散会・合併等が行われているが種目総数は10種目で変化はない。

## 2. クラブ員数



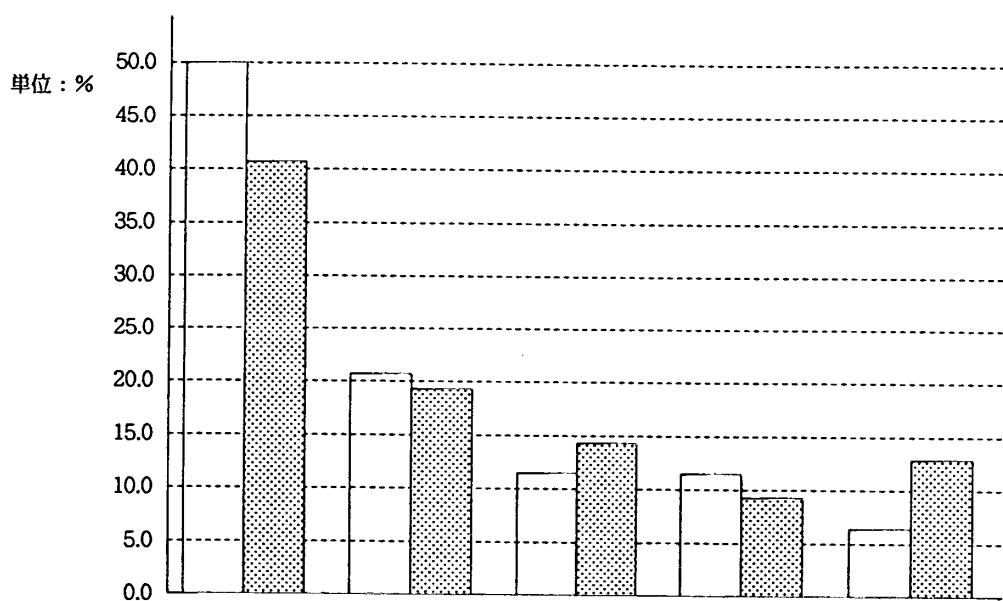
クラブ員数は全体的に増加傾向にあるが、63年度同様「10~19人」が最も多く、充実した活動を継続していくためにはまだまだ人数不足と思われる。

## 3. 活動日数



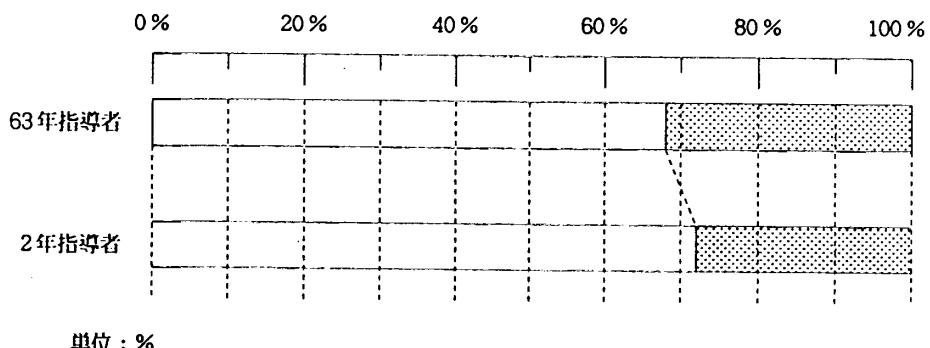
活動日数は週1回が圧倒的に多く前回との変化はほとんど見られない。

#### 4. 会費（月換算）



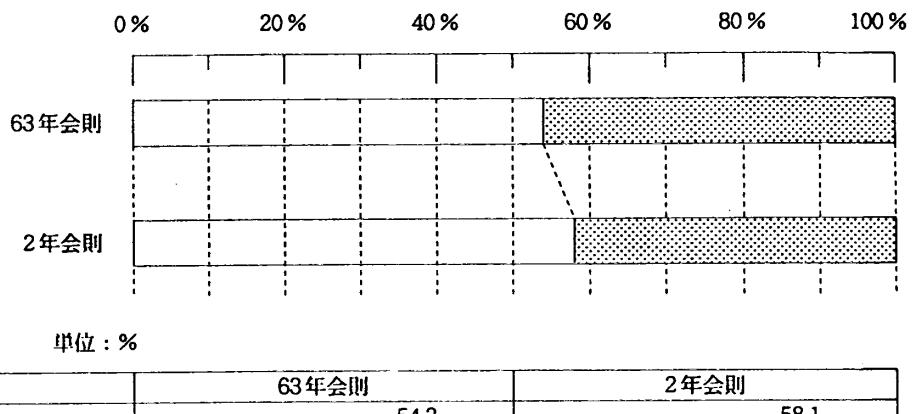
会費については連合加盟によって経済的負担（使用料減額措置による）が軽減されていると思われたが、活動の多様化等により著しい変化はなかった。

#### 5. 指導者の有無



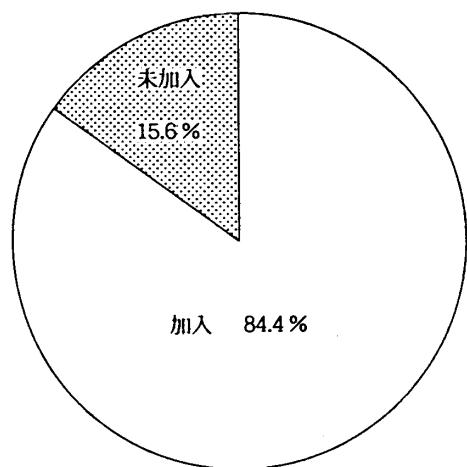
数値から見ると指導者を持つクラブは若干増加したようだが、大きな変化までは至っていない。

## 6. 会則の有無



研究協議会で会則の必要性を取り上げたが、会則の有無についてあまり変化は見られない。

## 7. 保険加入（前回調査なし）



傷害保険には大部分のクラブが加入しているが、15%のクラブが未加入である。すべてのクラブが加入することが理想である。

### （概要）

残念ながら調査実施数（回答）が前回調査よりだいぶ少ないと全項目において妥当性に乏しいと思われる。連合発足後、実質2年しか経過しておらず、クラブの活動状況に大きな変化をもたらすまでには至っていないようである。今後、長期的展望に立ちクラブの変化を観察していきたい。

## クラブ連合に関するアンケート調査結果

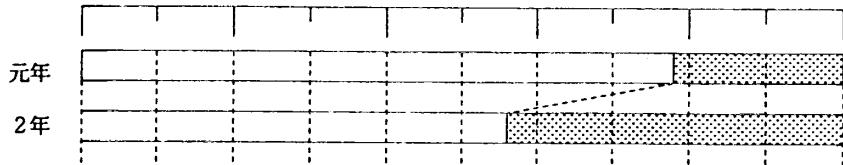
|       |  |
|-------|--|
| 調査実施日 | 平成元年2月及び平成2年10月  |
| 調査実施数 | 元年：37クラブ 2年：33クラブ  |
| 調査目的  | クラブ連合が発足して3年目を迎え、発足当時と現在の調査を比較することにより、クラブ連合のとらえ方・各事業に対する意識がどのように変化したかを把握し、今後の参考とするため実施した。  |
| 調査項目  | <p>1. あなたはスポーツクラブ連合をどう思いますか？</p> <p>2. スポーツクラブ連合ができてクラブの運営はやり易くなりましたか？</p> <p>3. あなたはスポーツクラブ連合ができて良いと思うことはなんですか？（重複可）</p> <p>4. あなたがスポーツクラブ連合に期待するものは何ですか？<br/>(重複可)</p> <p>5. スポーツクラブ連合に加盟してクラブに何か変化した点はありますか？</p> <p>6. その他御意見がありましたらお書き下さい。</p> |

※調査実施数が異なるため、すべてパーセントによる比較とした。

### 1. あなたはスポーツクラブ連合をどう思いますか？

|            | 元年  | 2年  |
|------------|-----|-----|
| ①発足して良かった  | 79% | 55% |
| ②どちらともいえない | 21% | 45% |
| ③思ったほど良くない | 0%  | 0%  |

0% 20% 40% 60% 80% 100%



|         | 元年 | 2年 |
|---------|----|----|
| □ 良かった  | 79 | 55 |
| ▨ どちらとも | 21 | 45 |
| ▨ 良くない  | 0  | 0  |

5. スポーツクラブ連合に加盟してクラブに何か変化した点はありますか？

- ☆コートの確保ができる為、レッスンが確実となった。
- ☆施設の確保がしやすくなつたが諸行事が増えて参加者の調整・確保が大変な面もある。
- ☆色々なスポーツをするようになった。
- ☆情報が入手しやすい。

6. その他御意見をお書き下さい。

- ☆硬式テニスの為、場所確保が第1となります。冬場のコート使用がこれから心配です。
- ☆クラブ連合の中での使用料の統一を望みます。
- ☆サブの団体扱いを検討して下さい。
- ☆硬式テニスですがネットが破れたり白線が浮いています。練習上差支えありますので修正して頂きたいと思います。

### 〈概要〉

全般的に前回データより悪い結果となつたが、これは代表者として色々な事業等へ参加するための取りまとめの煩わしさ、或いは行事参加を負担に感じてしまう部分があるのではないかと思う。しかし、クラブ連合を良くないと思っている人はいないので今後の働き掛け或いは事業の展開いかんによって良い方向へ進むのではないかと思う。今回の調査結果を冷静に受け止め今後クラブ側の立場を充分考慮しながら事業の展開を図り、連合の歩るべき姿を探っていく必要がある。

## 6. 連合結成の成果と今後の課題

前記のアンケートにあるように、連合発足当時と現在のクラブの実態を比較してみると、その成果は、数字としては大きな変化を示していない。発足してまだ3年目であり歴史が浅いだけに、急いで結果を求めるのは早すぎるだろう。連合構想の中で示した、達成できるであろう項目の内、確実に変化した点がいくつかあげられる。一つめは「活動の多様化・活発化」である。今まででは、クラブ内の活動にしか目が届かず、他の曜日に活動するクラブについて、その存在すら知らなかったというのが大部分であろう。連合化により、他クラブの存在を知り「あんな種目もやってみたい」「こんな種目にもチャレンジしたい」といった意識が芽生え、指導者の相互派遣や交流等が活発に行われるようになってきた。卓球クラブが定期的にニューススポーツを取り入れたり、軽スポーツクラブが太極拳の指導をしてもらったり、といった具合である。二つめは「行政との交渉権」を得たことである。今まででは、施設を借りる側・貸す側という認識程度であって、要望や意見も規則という壁で言いづらい部分があった。この事業によって行政とクラブとの距離が一挙に縮まり、表裏一体の関係になった。話し合いの場を持つことにより規則の運用を図り、施設の有効活用がなされるようになったのである。三つめは「クラブの実態の把握」である。組織化にあたり、それぞれのクラブの実態を詳細に調査したことにより、今まで市民のスポーツ参加への紹介方法がスポーツ教室のみに限られていたものが、ダイレクトに、それも適確にクラブへの紹介ができるようになった。また、人数不足等により活動が停滞し、散会や消滅という事態を招き、続けたい人もやめざるを得ない状況であったものが、他クラブとの合併という方法で生成発展をし、活動を継続できるようになった。

一方、今後の課題としては、これまでの共通理解が主にクラブ代表者や役員に対してのものであり、各クラブ員にどれだけ浸透しているのかやや疑問である。段階を踏んでなお一層の理解を求めていかなければならない。また、育成事業であるため、今まで行政主体で運営せざるを得なかった。これからは、本来あるべき姿である自主活動・自主運営を目指し、その方策を考えいかなければならない。そして最終目的である全市的組織づくりに向けて、あせらずに一步ずつ連合の輪を広げていければと願っている。

## 7. おわりに

国における「地域スポーツクラブ連合育成事業」は、昭和62年度から初めて実施された事業である。正に、スポーツ振興のために自主的活動組織の育成を進めた時代から、その内容・質が問われる時代の到来である。育成事業の実施市町村は全国的にも数例しかなく、その形成段階におけるマニュアルも見当たらない。足利市においても、試行錯誤を繰り返し、足利方式を探ってきた。それぞれのクラブには、目的の違いや、発足までや発展過程の違いもあり、その実態は様々である。全てを横一線に並べて同じ尺度でのクラブ育成はむずかしいであろう。しかし、この事業がクラブにとって僅かでも有益をもたらし、クラブ発展のヒントを与えたはずである。いつまでも「クラブの、クラブによる、クラブのための」連合であり続けることを期待している。

## 評

スポーツクラブ連合という、わが国では先導的な推進施策に取り組まれ、研究を重ね実践されていることに、先ず、敬意を表します。全国で20市町村を超える取り組みの中にあって、地域型の『富山県、福野町スポーツクラブ連合』、学校開放型の『岡山県倉敷市、下津井スポーツクラブ連合』、そして、施設型の『足利市スポーツクラブ連合』と代表されるほどの実践となれたのも、費やした多くの時間と労力の賜物と推察いたします。

「地域スポーツクラブ連合育成事業」という事業の名称から、ともすると連合組織そのものの育成に主眼を置きがちですが、足利市の実践では、「スポーツクラブ連合はスポーツクラブのために、そして、スポーツクラブは個人のスポーツ活動を保証していくためのもの」という理念を見据えての実践が、成功に結びついているものと思います。

これから生涯学習（生涯スポーツ）時代に向けて、施設、種目、活動プログラム、対象、技術水準等あらゆる面で多様化する市民のスポーツ欲求の対応に、この事業の果たす役割は、大きなものがあると考えます。本文でも触れているとおり、この事業は一朝一夕に完成されるものではなく、逆に50年そして、100年先の市民スポーツの方策を探る、壮大なロマンを秘めた事業なのではないでしょうか。

これからも、これまで同様スポーツクラブ連合をとおして、単位スポーツクラブ、そして、市民のスポーツ活動を推進する事業を展開されることだと思いますが、それと同時に今回行ったような調査を定期的に積み重ね、スポーツクラブ、市民の実態、意識の変容の把握に努められることも重要かと思います。